

#多様な学びを 探しに行こう！



<https://sld-colorfulbird.com/>

カラフルバード 🔍



@sldcolorfulbird

カラフルバードは
LDの子どもたちのために
様々な情報を集めて提供するサイトです



LD（学習障害）とは、

全般的な知的能力には遅れがないのに、特定の能力（読み・書き・計算など）に困難が見られ、学習がうまくいかない状態をいいます。

通常学級の中に6.5%程度いると考えられていますが、障害であることに気付かれず本人の努力不足と考えられている子どもがいます。

また、LDの小学生の35%、中学生の60%が不登校との調査結果もあります。

（参考）練馬社協が作成した
発達性読み書き障害早わかりガイド→



宿題をやりたがらない
ノートがとれていない
トラブルはないのに学校に行き渋る
漢字が覚えられない
英語だけ極端に苦手
計算でつまづく

カラフルバードは、Twitterで繋がった保護者と支援者によるグループで運営されているサイトです。LD（学習障害）の情報は集めにくく、苦労してきた経験を他の方々にも共有したいと、このサイトを開設しました。

LDは「Learning Differences（学び方のちがい）」とも呼ばれます。

LDの状態は多種多様で、誰一人同じ状態はありません。困難さもそれぞれ違います。同じ学び方・支援でも、人により合う合わない、合う時期、合わない時期があります。本サイトは、その選択肢の一つを見つけられるサイトとなればと思っています。



カラフルバードへの応援メッセージ

50音順で紹介



「この子はLDかもしれない」と気づいた時、きっと保護者の方はとても不安になられると思います。なぜなら「どうしたらいいか」が明快でないから。カラフルバードさんのHPを見た時、「ああ、ここには誰もが知りたかった情報が詰まっている!!」と胸が高まりました。

明日の授業で使いたい文具から知っておきたい公的機関の情報まで、痒い所に手が届く上質の情報が、見やすく整理されていて、「まずはここを見て」と言える場所です(*^o^*) さらに、特定のメソッドを盲信することなく、「多様な学びを探しにいこう」というコンセプトが貫かれています。私もカラフルバードさんのページでしっかり勉強して、目の前にいる子ども達の学びに生かしていきたいと思います。貴重で素敵な場所をありがとうございます!! 心から応援しています。

島根県安来市立荒島小学校 教諭 井上 貴子 先生



中川信子さんから、カラフルバードの活動を聞きました。非常に心強くまた嬉しく思います。私は現在は、LD学会やSENSの活動を見守りながら、私立の特別支援学校、旭出学園の理事長として、障害のある子供たちの生涯教育と生涯福祉のために私の残されたエネルギーのすべてを注いでおります。あなた方の活動が、多くの方たちの力強い励ましになるよう心からお祈りいたします。私でお役にたつことがあれば、どうぞ声をかけてください。

東京学芸大学名誉教授/日本LD学会元理事長

上野 一彦 先生



「LD」と言う言葉にとらわれることなく、「学習に行き詰ったら・・・」「今よりもう少し楽しく勉強ができる事はないか?」そんな思いが芽生えたらまず覗くとよいと思います。一人ひとりの学びの特性に応じた手立てを考えるうえで大事なことは、根拠に基づく事です。それ以上に「今できる事」をそれぞれの立場で考える必要があります。このサイトはその第一歩としての情報を与えてくれるものになっているように思います。上手に育って、また皆で育てていってほしいですね。

立命館大学 教授 川崎 聡大 先生



「知識は力なり」という格言があります。

これは、多くの知識を身につけることは力になる、という意味です。これまで、学習障害について知識を得たいと思っても、バランスよく知識が提供されている場がほとんどなかったのではないのでしょうか。これからは、学習障害の当事者、保護者、関係者などが、支援や合理的配慮のための力を得ることができる場が、カラフルバードになるでしょう。



北陸大学 教授 河野 俊寛 先生



素晴らしい企画ですね。確かにLDは学び方は人それぞれ、まなびの多様性を尊重した関わりが大切です。最近のことばでは Learning Diversityです。ある保護者と先生の会話です。子どもの学習面の悩みを相談した親に

先生から一言。

「お母さん、こんな子他にも沢山いますよ。心配し過ぎですよ。」
担任は励ましたつもりで相手を傷つけています。今、子どもは困っているんです、悩んでいるんです。先生の基準ではなく、その子に寄り添い、その子に合った学びを一緒に見つける努力をしてくれる先生が欲しいです。

大阪医科薬科大学LDセンター顧問 竹田 契一 先生



LD。対象も広いし、立場によって見えるものも驚くほどちがいます。学問としてきっちりさせることがお仕事の学者さんやお医者さんなど専門家の発信には「勉強になります!」がたくさんあります。けど一つの見方が強すぎて

「今、ここ」の「うちの子」にはフィットしなかったり、専門的すぎて理解しにくいこともありませんか? 当事者・保護者による情報があふれるこの「カラフルバード」のサイト。「私が探していたこと」にたどりつく入り口になるといいですね。

応援します!

子どもの発達支援を考えるSTの会 代表 中川 信子 先生



特異的学習障害は、大きく読み書きの課題と算数の課題に分かれますが、テストの点数が低いだけで「知的障害」と誤認されていることもよくあります。会話を含む日常生活のコミュニケーションには問題がないのに、学習のつまづきがあるときには、考えてみる必要があります。それぞれの抱える困難さに応じて対応方法が異なることも多いので、診断だけで終わらないことも大切です。

医師 平岩 幹男 先生 うさぎ 1号 先生

